

2024年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

【車両生産台数の見通し】

Q: 今期の車両生産台数の見通しについて、全体感と、中国・タイなど懸念地域について教えてください。

A: 全体感としては、コロナ前の水準から少し劣る台数まで戻ってきた感覚です。下振れリスクとしては、中国は極めて大きく、12月は売上計画に対して約10%減でしたが、今後在庫調整が始まると考えており、4Qは売上計画に対し2~3割下振れすると考えています。ASEANは車両生産台数が概ね下げ止まった感覚ですが、タイでのピックアップトラックの販売減やローン貸付基準の厳格化の継続により、売上計画に対し1割程下振れが続くと考えています。

【不正影響】

Q: ダイハツ様・豊田自動織機様の出荷停止による影響額を、どの程度見積もっているか教えてください。

A: ダイハツ様向け売上は、通常約100億円弱/月あり、影響金額としては12月に売上20億円減、また4Qには約170億円減の合計約190億円を織り込んでいます。豊田自動織機様の影響は、軽微だと考えています。

【トヨタグループビジョン】

Q: トヨタグループビジョンに対する受け止め、社内での対応方法について教えてください。

A: 品質問題を起こしていることから、トヨタグループビジョンを極めて厳粛に受け止めています。当社は「品質のデンソー」を謳わせていただけてきましたが、これが揺らいでいる自覚を強く持っています。原点に立ち戻り、信頼と信用を取り戻すということを第一に、品質管理の仕組み化と「意識」「知識」「風土」の取り組みを進めていきます。

【トヨタG株の持ち合い解消】

Q: トヨタG株の持ち合い解消が進んだ変化点について教えてください。

A: 東証の要請やコーポレートガバナンスコードの改定の影響もあり、トヨタG内での意識の浸透がありました。また、CASE領域への投入に向けたキャッシュの創出という観点もありますが、当社が強い意思を持ち、持ち合い解消に向けた協議を各社と続けた結果だと考えています。今後も当社が保有する政策保有株式については、先頭を立て持ち合い解消を進めていきます。

【自社株買い】

Q: 株式売出しの全額を自社株買いしなかった理由を教えてください。

A: 今回の売出しは株主構成変革の好機と捉えており、機関投資家とは逆の投資傾向を持つ個人株主を増やすことで、当社の株価変動を抑え、資本コストを低減させる目的がありました。そのため全額自社株買いには至りませんでした。売出しにより市場へ大量の株式が流れることに伴う、需給悪化による株価の急激な変動を止めるために必要な金額を統計的に試算し、2,000億円の自社株買いといたしました。今後も自社株買いは、M&Aや株価の状況などを鑑みて、機動的に進めていきます。

以上